



## 研修医生活を振り返って

前・信楽園病院

中 村 榛 花

信楽園病院での初期研修を終え、現在長岡赤十字病院 腎・膠原病内科専攻医 1 年目の中村榛花と申します。

私は茨城県出身で、新潟には入職を機に初めて参りました。研修開始当初は、知らない土地での不安もあり、3 年目以降の進路についても診療科や働く地域に関して迷いがありました。

信楽園病院では、内科系を中心に急性期から慢性期まで幅広い症例を経験させていただきました。学生の時にも病棟実習は経験していましたが、医師として患者さんを問診診察し、検査・診断・治療するにあたって、自分の学んだことが実際に治療に役立つ面白さと、自分の不勉強が即座に患者さんの不利益に繋がる怖さの両方を感じました。

長期間にわたり複数の診療科に通院されている方も数多くおられ、治療だけではなく介護の問題、家族の状況など退院後の生活についても考慮する点が多数あることを学びました。比較的長いスパンで 1 人の患者さんに接する経験ができたことは、かかりつけ医として患者さんと信頼関係を築いていける医師を目指したいという自分の希望に合った研修だったと感じています。

一方で、臨床現場に出たことで医師不足の現状も実感しました。学生時代はほとんど大学病院での実習であったこともあり、1 人の医師が診ている患者数の差に驚き、数年後に自分がこの業務をこなせるのか不安にもなりました。しかしそのよ

うな環境においても、指導医の先生方は日々の業務で多忙を極める中、時間と労力を惜しまず丁寧にご指導くださいました。

コメディカルの方々の存在も非常に大きく、皆さん親切に接してくださり、何度もこちらの勉強不足をサポートしていただきました。研修医の同期を筆頭に、少しずつ新潟での知り合いも増え、私生活を含め地域の方々に多くの支えをいただき、良い思い出がたくさん残る 2 年間となりました。その結果として、これからもこの地域で働きたいという気持ちから最終的に新潟大学への入局を決めました。医師不足は簡単に解決するものではありませんが、少しでも地域に貢献できる医師になれるよう、これからも精進していきたいと思います。

総合的に振り返ると、医師として働き始めたことで、仕事でなければ関わる機会のなかったであろう多くの方々と接し、想像もできなかったような経験を数多く積むことができました。研修医同期や大学の同級生と会っても、お互い仕事の話が一番盛り上がったように記憶しています。他職業の経験がないため比較はできませんが、今後もうこうして色々な意味での勉強を重ねていくであろうことを思うと、この職に就くことができて良かったのではないかと感じております。

(令和 8 年 3 月入稿)